

インドネシアのタバコ

インドネシアにもさまざまな種類のタバコがありますが、インドネシアでは日本人になじみのある白いタバコより「クレテック」と呼ばれるものがより一般的です。

クレテックとは乾かしたタバコの葉に丁子（クローブ）や他の香料を混ぜたタバコです。クレテックという言葉はクレテックを燃やすときに聞こえる音を指してそう呼ばれるとされています。

インドネシアでは喫煙者の90パーセントがこのクレテックを吸っていると言われています。インドネシアには、大手企業及びローカル企業を合わせて100社ものクレテック製造業者があり、国際的に知られているブランドでは、ジャルム、グダン・ガラム、サンポルナ、ノジョロノ、ウイズミラクなどがあります。

また、インドネシアの喫煙者数は世界一多いという調査結果もあります。タバコはコンビニ、スーパー、雑貨屋などさまざまな場所で販売されており、パッケージには18歳未満の子供に販売してはいけないと表示されているものの、現実的には誰でも購入することができ、身分証の提示も求められません。喫煙者の数が国民の3分の1に達したとも言われており、特にインドネシアの男性は3分の2が喫煙者だと言われています。

父親がタバコを吸いながら子供をあやす姿もインドネシアでは当たり前の光景

となっており、そういった環境で育つこともあって、早い子では10歳ぐらいでタバコを覚えます。若者の喫煙者数も高い割合を占め、喫煙者数全体に占める18歳以下の喫煙者数は2015年の7.2パーセントから2016年では8.8パーセントに上昇しています。

インドネシアのタバコの広告が、「喫煙者の男性は女性に好かれる」といった風に描かれていることも若者の喫煙を助長しています。10歳未満の3人に1人が喫煙の経験者で、16歳以下の若者では、約100万人が常習喫煙者となっているとも言われています。ここ10年で3倍に増えたとの推計もあり、喫煙は若者のアイデンティティとなっているのです。以前に2歳児が喫煙している映像が日本でもニュースになりました。



パッケージには、健康被害の写真による警告が印刷されている

昨年、政府がタバコにかかる税率の引上げを発表し、一番高いもので13.5%、平均して10.5%という案を出しました。それと同時にタバコ自体の価格を12.3%引き上げるという案も打ち出しました。この値上げの背景には国民の健康意識の改善も目的としてあったようですが、大幅値上げによるたばこ業界への打撃が懸念され、結局は小幅な値上げにとどまりました。

タバコの値上げはタバコの葉や丁子（クローブ）を生産する農家、工場勤務の労働者はもちろん、インドネシアの場合、行商人や露天商の生活にまで影響します。

しかし、近年、インドネシアでは、年々タバコの値段は上昇しています。インドネシアの喫煙者の意識、タバコ産業に関わる人々の生活状況は今後どのように変化していくのでしょうか。

以上

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 29

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,
Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT. JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託）。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。のうえ、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。